

札幌市立幌南小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.konan-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等



本校（児童数 570 名）は、市の中心部に位置する。校区にはマンションが立ち並ぶ都市型の学校である。そのため、緑が少なく、放課後に子どもが遊べる広いスペースもない。そこで、学校教育の中で自然の営みのすばらしさを体験するため、幌南の森（遊々の森事業に参加し、藻岩山中腹に位置する 11.8ha の森）での活動を核とした環境教育に取り組み、平成 23 年度は「札幌らしい特色ある学校教育」事業にも参加した。

雪に関する学習活動については本校の教育活動全体の中で捉え、重点目標である「学びも心も体もたくましい子の育成」の観点から、自ら雪に親しみ雪と共生する体験を通して、知・徳・体のバランスの取れた子どもを育もうとしている。

【教育課程における「雪」に関する実践】

- (1) 「チャレンジタイム」 始業前 10 分間の「朝の活動」のうち、週 1 回の「チャレンジタイム」で体力づくりに取り組んでいる。冬は、グラウンドでのマラソンとターゲットシュート（雪玉による的当て）がある。寒さに負けず、マラソンは持久力を高め、ターゲットシュートは投げる力を向上させている。
- (2) 「休み時間の遊びとボランティア活動」
 - ① 「雪山遊び」 スキー学習用に造られる雪山を学習終了後に雪山遊びに開放している。タイヤチューブは曜日ごとに学年に割り当てられているが、尻滑りは山の側面を自由に滑ることができる。
 - ② 「そり遊び」 雪山造成の時に除雪した雪を活用し、小さな土手をグラウンドの周囲に造っている。子どもたちは、お気に入りの高さの土手を見付けて思い思いにそり遊びをする姿が見られる。
 - ③ 「雪中サッカー」 平地部分では、雪中サッカーが人気である。スライディングをしてもけがをしないので、雪中サッカーの方が好きという子も多い。土の上とは一味違う雪中サッカーは、札幌らしい遊びの一つと言える。
 - ④ 「除雪ボランティア活動」 本校のグラウンドは校舎より低い位置にあり、階段が 4 か所ある。冬季間は、階段を除雪しないとグラウンドに降りられない。そのため、5・6 年生がスコップを持って除雪することが伝統的な活動となっている。6 年生では、学年プロジェクトの取組の一つとなっている。
- (3) 「子しんじゅ活動（縦割り活動）」 子しんじゅ活動は、隔週で中休みに遊ぶ日常活動を基盤としながら、ふれあい遠足や綱引き大会、似顔絵会などの行事を通して豊かなかかわりを生み、思いやりや感謝の心、仲間意識を育てる活動である。冬季中も雪積みや雪中ドッジボールなど、積極的に雪遊びをして、仲間とふれ合う活動を展開している。



本校の休み時間のグラウンド遊びには、冬でもたくさん子どもが訪れる。理由の一つは、チューブ滑りや尻滑りができるスキー山、そり遊びができる土手のような小山、サッカーが存分にできる平地、迷路のようなマラソンコースなど、起伏や変化に富むようにグラウンドが造成されていることである。もう一つの理由は、チューブやそり、ボールなどの数が豊富にあり、子どもが自由に使えることである。雪に親しむ時間の設定や空間づくりの工夫により、雪遊びや雪を生かした運動を積極的に展開し、全身を使って雪に親しむ北国のたくましさを身に付けようとしている。また、雪と関わることで人と関わり、仲間意識を育てている。雪に親しむことで、雪との共生や雪のある暮らしに目を向け、季節のよさを感じながら冬を楽しむ札幌人に育ってほしいと願っている。

2. 実践 1

(1) 実践单元名

1年 生活科 「冬をたのしもう」(12時間扱い)

<「冬の遊び名人になろう」(6時間) + 「雪まつりたんけんをしよう」(6時間)>

(2) 目標

- 雪遊びを通して、雪の魅力に気付き、自分たちの遊びを工夫したり表現したりする力を育てる。
- 雪祭りを見学し、雪像の迫力や美しさを感じ取り、札幌にある大きなイベントのよさに気付く。

(3) 取組の様子

①「冬の遊び名人になろう」～雪で作る活動

雪玉や雪だるま、雪像、基地、かまくらなど、友達と協力して作る計画を立てた。2時間の製作活動では、バケツや色水などを使いながら色彩や形を工夫して、寒さを忘れて楽しく活動していた。

②「雪まつりたんけんをしよう」

学年合同でオリエンテーションを行い、概要や持ち物、コースを説明し、グループごとにめあてや約束を話し合って決めた。2回目はグループごとに見る雪像を決め、3回目は市電と地下鉄のマナーやトイレの行き方を実際に学校の廊下やトイレを使ってシミュレートしていた。実践的な事前学習をすることにより、実際の雪まつり探検では、マナーを守って楽しむことができた。



(4) 実践のまとめ

- 雪遊びを通して、作りたいものが形になり、作品を友達に紹介して一緒に遊ぶなどして楽しむことができた。
- 「雪まつりたんけん」では、計画どおりに見学しようと時間を考えながらグループで協力して活動していた。公共交通機関の利用のマナーを守ることを意識できた。

3. 実践 2

(1) 実践单元名

2年 生活科 「冬をもっとたのしもう」(14時間扱い)

<「雪まつりたんけんをしよう」(11時間) + 「雪遊びをしよう」(3時間)>

(2) 目標

- 「雪まつりたんけん」の活動を通して、グループで協力することの大切さが分かり、札幌にある大きなイベントのよさに気付く。
- 「雪まつりたんけん」で感じた思いを膨らませて、自分たちで雪遊びを工夫して楽しむことができる。

(3) 取組の様子

①「雪まつりたんけんをしよう」

「雪まつりたんけん」では、グループで協力して見学をすること、市電と地下鉄のマナーを守り自ら券売機で乗車券を買って改札を通ること(地下鉄)の二つのめあてを設定した。その後、活動の見通しをもつため、事前に雪まつり新聞に載せたい記事を決める活動をする。探検では、グループごとに1台のデジタルカメラを持ち、新聞に載せる写真を撮るようにした。



②「雪遊びをしよう」

「雪まつりたんけん」では滑り台を経験し、自分たちでも雪で楽しみたいという気持ちが高まった。スキー山やそり・チューブを使って仲良く活動した。



(4) 実践のまとめ

- 「雪まつりたんけん」では、雪像の美しさや迫力を感じながら、新聞作りや公共交通機関の利用の仕方、グループでの協力など、めあてをもって行動し札幌の冬のイベントのよさを感じることができた。
- 「雪まつりたんけん」での経験を生かして、自分たちで雪遊びを工夫して楽しむことができた。

4. 実践 3

(1) 実践単元名

4年 社会科 「北海道の特色のあるまちづくり」 (19時間扱い)
<スノーキャンドル作り (2時間)>

(2) 目標

- 北海道の特色あるまちとして小樽市を取り上げ、小樽運河が観光スポットとして人気がある理由を調べ、地域の特性や資源について考えることができる。
- 小樽運河の「雪明かりの道」の取組から、校地の通路を自分たちの力で雪明かりの道にすることができる。

(3) 取組の様子



小樽市の観光産業について学習した後、自分たちにもできることはないかという思いを学級・学年で広げた。雪像や基地づくりなどの雪遊びを経験している4年生は、雪明かりの美しさからスノーキャンドルに興味をもった。保護者にも協力をお願いして、PTA行事である「親子ふれあい活動」として企画し、スノーキャンドル作りが実現した。

バケツに雪を詰めて、ひっくり返して取り出す。上や横から穴をあけてローソクを設置した。作り方は簡単なので、ビオトープにあった枝をさしたり、組み合わせた



りして、造形的な楽しみ方をしていた。明かりを点けた時、「おお」「わあ」と、歓声が上がった。4年生の親子共に、雪の柔らかい明かりから、雪の新しいよさを発見した様子であった。

(4) 実践のまとめ

- 社会科の雪に関わる産業から、自分たちが身近な環境に働きかけて雪の新たな価値を発見することができた。
- 親子で協力して雪に関わり、多様な活動を生み出す雪の魅力を全校に伝えることができた。

5. 研究のまとめ

- 子どもにとって魅力的な空間づくりや遊び道具を豊富に整える環境づくりによって、自ら多様な活動を創造し、札幌の冬を元気に過ごすことができた。
- 「雪まつりたんけん」の取組によって、札幌らしいイベントの雪と親しむ生活の知恵や文化を肌で感じる事ができた。
- 雪像作りや雪明かり製作など、雪の特性を生かした造形活動により、雪に関わる基本的な技能を高め雪の美しさを感じる事ができた。
- 雪に関する学習を通して、課題を考えたり工夫したりして、新聞で表現したり伝え合ったりして、問題解決能力を高めることができた。



3年生図画工作「アイスキャンドル」